

コロナウィルスの特徴と安全措置

感染がますます拡大する昨今、客観的な研究や多くの症例によりコロナウィルスの特徴がしだいに分かってきました。これらの知見に基づき、論理的な帰結として妥当な安全措置を吟味し、弊社では以下のような社内ルールを設けています。これは社内のみならず、個人の生活とも不可分であるため、社員による自主的な履行を勧めています。顧客や得意先との応対も、双方のためにこの安全措置に準じた方法で厳格におこなっておりますので、なにかとご不便をおかけしますが、ご了承ください。

■コロナウィルスは企業や集団の中に潜む。

企業は社会に害を及ぼす存在であってはならない。

社会人として安全措置を順守し、良識ある行動をとるべきである。

そもそも徹底的に感染を抑え込むことが、最大の経済効果をもたらす。

宣伝や勧誘、メディアや当局によるいかなる外出の誘導にも乗らず、理性的に判断し行動する。

資材の仕入れや製品の納入は、安全措置に準じた方法で厳格におこなう。

■コロナウィルスは人から人へ感染する。

出来る限り自分の生活圏内、業務範囲内に留まる。

当面は、各種イベントへ行くことも、出展することも差し控える。

不要な外出、会合、旅行、電車、バス、タクシー、航空機などの公共交通機関を避ける。

出来る限り徒歩、清潔な自家用車で移動する。

帰省は原則として自粛し、感染リスクを無視して自己判断しない。

外出先でのトイレ、公衆浴場なども出来る限り避ける。そもそも、遠方へ行ってはいけない。

■コロナウィルスは目に見えない。

想定される感染経路を自主的に断つしか、予防方法はない。

生活を共にしない人とは、軽率に接触しない。やむを得ない場合は、2m以上の距離を保つ。

飲食店、ヘアサロン、治療院、各種イベントなど、人の集まる場所は極力避ける。

会議、会話や連絡は出来る限り電子的手段を用いる。可能な限りテレワークを推奨する。

業務内容ごとの小さなグループでのみ行動し、大部屋での作業は避けるべきである。

■コロナウィルスは生き物ではなく、ある種の有機的な構造体である。

体内のウィルスは無毒化するいかなる薬剤も化学物質も存在しない。

その有機構造を分解する自然成分の洗剤や高濃度のアルコールだけが有効である。

長く露出した食品や飲料は、口にはしてはいけない。

買った生鮮品はよく洗って食べる。

■コロナウィルスは非常に軽い物質である。

換気の悪い場所に漂い、風によって粉塵のように舞い、広く拡散する。

食料品、生活用品を仕入れる際は、混雑時を避ける。

長期保存のできる、安全な食料品を備蓄する。

フェイスシールドとは名ばかりで、単なる反射板であり、完全にシールド（遮蔽）はされていない。

■コロナウイルスは非常に微細な物質である。

自家製の布や、簡単な紙のマスクはザルのように通り抜ける。

フェルト状の編んでいない、羊毛製のフィルターが効果的である。

繰り返し洗って使える、FFP2～FFP3、KN95以上のマスクが望ましい。

■コロナウイルスはすぐには消滅しない。

衣服や物に付着し、長い時間その活性を維持する。

自分の体、衣服、持ち物を清潔に保つべきである。

共有スペースに私物やゴミは置かず、適切に処理すべきである。

数年間は今の状態が続くか、変異してさらに悪化することも想定する。

当面はワクチンも治療方法の確立も見込めず、安全措置を守るしか方法はない。

■コロナウイルスは弱った心身を攻撃する。

睡眠、食事、ビタミン、ミネラルなどの栄養素を正しく摂る。

規則的な生活を心がけ、心身ともに健康な状態を保つ。

前向きで、リラックスした、ストレスを溜めない生活意識が一番の予防である。

過激な運動を慎み、疲労を溜めない。

■コロナウイルスはすぐに発症しなくても感染を引き起こす。

感染している自覚がなくても、無責任な行動で他人に感染させる可能性がある。

自覚症状がある場合は、速やかに、ためらわず報告し、対応について相談を受ける。

老若男女を問わず、誰でも感染者あるいはウイルスの運び手になりうる。

重症化する恐れのある高齢者の介護施設、福祉施設等へ無断で立ち寄ってはならない。

衣服や身体に付着したウイルスは、どこにでも容易に拡散する。

スパークラー・オーディオ株式会社

代表取締役・塚原和俊